

日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

平素は日本山岳遺産基金の活動にあたたかいご支援を賜り誠にありがとうございます。おかげさまで私たちの活動は15年目を迎えることができました。2024年度の日本山岳遺産は3地域／団体を認定し、15年間で合わせて51の地域・認定団体を支援してまいりました。これからもふるさとの山で活躍されている認定団体のみなさまの広報活動を進めてまいり所存です。これからも日本山岳遺産基金へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

おかげさまで設立15年となりました

今年度も個人の方からのご寄付や賛助会員企業様のご支援のもと、当基金では日本山岳遺産認定地／団体として3地域／団体への助成を決定いたしました。地元の山の保全とその発展に力を尽くしておられるみなさまの活動内容につきましては、本通信にてご紹介しておりますのでぜひ一読ください。また、年明けに開催する日本山岳遺産サミットでは、当基金の年間の活動についてご報告させていただく予定です。

設立から15年が経過する日本山岳遺産基金ですが、これまでに

日本山岳遺産として認定した先は、32県51先となりました。かねてより、認定団体様同士が共通する課題について意見を交わす機会を設けたいと考えておりましたが、そのモデルケースとなりうる試みを一部の地域で年明けに開催することを現在計画しております。認定地の関係者様がつながり、その交流を通して課題解決への糸口を見いだせれば大きな前進が期待できるでしょう。引き続き日本の山々が持つ豊かな自然・文化を次世代につなげる取り組みをひとつずつ増やしてまいります。

2024年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- 1 櫛形山(山梨県)／櫛形山ネットワーク
- 2 小金沢シオジの森(山梨県)／シオジ森の学校
- 3 乙女高原(山梨県)／乙女高原ファンクラブ
- 4 石鎚山(愛媛県)／久万高原町
- 5 早池峰山(岩手県)／早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- 6 九州中央山地五家荘エリア(熊本県)
／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- 7 夕張岳(北海道)／ユウバリコザクラの会
- 8 七時雨山(岩手県)／七時雨ロマンの会
- 9 臥龍山(広島県)／芸北自然保護レンジャー
- 10 アボイ岳(北海道)／アボイ岳ファンクラブ
- 11 金華山(宮城県)／特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- 12 船窪岳(長野県・富山県)／船窪小屋・道しるべの会
- 13 大台ヶ原大杉谷(三重県)／公益社団法人大杉谷登山センター
- 14 吾妻山(福島県)／吾妻山自然倶楽部
- 15 嶽ノ峰(長野県)／長野県大町岳陽高等学校山岳部
- 16 徳本峠(長野県)／古道・徳本峠を守る人々
- 17 南木曾岳(長野県)／南木曾山士会
- 18 三嶺(高知県・徳島県)／三嶺の森をまもるみんなの会
- 19 美瑛富士(北海道)／山のトイレを考える会
- 20 嘉穂アルプス(福岡県)／嘉穂三山愛会
- 21 ニツ森(秋田県)／一般社団法人白神コミュニケーションズ
- 22 岩手山(岩手県)／岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- 23 三ツ峠(山梨県)／三ツ峠ネットワーク
- 24 霧ヶ峰(長野県)／霧ヶ峰草原再生協議会
- 25 入笠山(長野県)／入笠ボランティア協会
- 26 伯耆大山(鳥取県)／グラウンドワーク大山蒜山
- 27 大雪山・黒岳(北海道)／一般社団法人大雪山・山守隊
- 28 トムラウシ山(北海道)／新得山岳会
- 29 飯豊山(山形県・新潟県・福島県)
／特定非営利活動法人飯豊朝日を愛する会
- 30 鹿沼市・岩山(栃木県)／機動パトロール隊
- 31 高田大岳(青森県)／十和田山岳振興協議会
- 32 大笠山(富山県)／五箇山自然文化研究会
- 33 伊吹山(滋賀県・岐阜県)／伊吹山を守る自然再生協議会
- 34 比叡山・比良山地(滋賀県・京都府)／比良比叡トレイル協議会

- 35 脊振山系(福岡県・佐賀県)／脊振の自然を愛する会
- 36 鋸山(千葉県)／金谷ストーンコミュニティ
- 37 信越トレイル(長野県・新潟県)
／特定非営利活動法人信越トレイルクラブ
- 38 金剛山(大阪府・奈良県)／金剛錬成会
- 39 山王山(長崎県)／新上五島町荒川郷
- 40 竜ヶ岳(三重県)
／竜ヶ岳自然環境保全推進委員会、竜ヶ岳登山道整備の会
- 41 京都北山・芦生の森(京都府)
／一般社団法人 芦生もりびと協会
- 42 鈴岳(宮城県)／フォレスト・マントル上鹿川
- 43 大雪山・旭岳(北海道)／東川町大雪山国立公園保護協会
- 44 鹿鳴越連山(大分県)／一般社団法人ひじ町ツーリズム協会
- 45 安達太良山(福島県)／あだたら山の会
- 46 朝日岳(富山県)／朝日岳方面 山岳遭難対策協議会 山岳救助隊
- 47 道宗道(富山県)／道宗道の会
- 48 浅間山(長野県・群馬県)
／特定非営利活動法人 生物多様性研究所あーすわーむ

①～④⑧は2023年度までに認定の日本山岳遺産



2024年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

新たに認定した3つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

北海道 幌尻岳 認定団体 一般社団法人 平取町山岳会

山の概要 原始性の高い優れた自然環境を誇る日高山脈の主峰、幌尻岳。先住民族のアイヌ民族との関わりも深い。ポロシリとはアイヌ語で「大きな山」という意味で、神のおわす山として信仰対象で、足を踏み入れることは禁忌だった。禁を犯して山へ入った者が下山後に死んでしまったという話や、山上にはアザラシの棲む海があり、昆布が生い茂る楽園があるという話が伝承される。7月から9月にかけて日本百名山の完登をめざす登山者が多いが、その大半は限られた日程のなかで慌ただしそうである。日程に余裕を持って入山いただき、幌尻岳の魅力を存分に感じてほしい。

認定団体の概要 1965年10月、幌尻岳周辺を含む国有林を管理するための避難小屋として幌尻山荘が完成したのがきっかけで営林署職員有志が職場単位での山岳会を結成。地域からも会員を募り、1977年5月に全町組織の平取町山岳会へ発展。幌尻山荘の維

持管理を行いながら幌尻岳を中心として活動の場を広げる。60年前に発刊された『日本百名山』による百名山ブームで登山者が激増したことから、幌尻山荘を中心とした幌尻岳額平川コースの維持管理が必要となり、平取町からの委託を受けて管理に努めてきた。2022年12月に法人化。

認定理由 半世紀以上にわたり幌尻岳の登山道整備を続ける。使用済みトイレの歩荷による荷下げなど、環境維持に大変な労力をかけている。さらに町民登山を通して幌尻岳の自然を幅広い世代に伝えている。質実剛健な活動を評価。



額平川の難関徒渉箇所には仮橋を設置している様子。四の沢出合付近

山梨県 北岳 認定団体 北岳、山岳医療ボランティア

山の概要 北岳は日本第2の高峰であり、日本百名山、新・花の百名山、山梨百名山に選定されている。間ノ岳、農鳥岳とともに白峰三山といわれている。キタダケソウなど珍しい花が咲き誇りとても美しい山である。1964年に南アルプス国立公園に指定され、山の上部はその特別保護地区、山腹は特別区域となっている。北岳の山小屋は1924年に造られており、1978年には山梨県により北岳山荘が建造された。現在は北岳山荘、北岳肩の小屋、白根御池小屋、広河原山荘があり、登山者の安全の確保がされている。このような背景から、登山者も多い。

認定団体の概要 2018年、当時の白根御池小屋管理人からの要望を受けて設立。北岳での山岳医療を中心に、安全登山の啓発活動と救護活動を行っている。通常は、夏山シーズンに白根御池小屋（標高約2,200m）に滞在し、登山口広河原～北岳山頂のエリ

アの登山道パトロールを行う。加えて、各休憩所や登山道で、登山者の様子を観察しながら声かけを行い、トラブルを未然に防いでいる。白根御池小屋では傷病者対応、健康相談、山岳医療相談を行い、救助が必要になった場合は白根御池小屋や県警と連絡を取り合いながら救助のサポートや救護活動を行う。

認定理由 登山者が北岳で安全に登山を行えるようボランティアで山岳医療活動を継続している点に加えて、昭和大学北岳診療部や山梨県警山岳救助隊、白根御池小屋など多くの関係者と協力して活動を行っている点を評価。



白根御池小屋にて昭和大学北岳診療部と共に活動をしている様子

告知 日本山岳遺産サミット開催

2024年度 日本山岳遺産サミットを2025年3月1日（土）に開催

日本山岳遺産基金では、未来に残したい日本の豊かな自然環境や、人と自然の関わりを有する山岳地域を「日本山岳遺産」として認定し、その地域で山岳環境保全・安全登山啓発・次世代育成などの活動を続けている団体に対して助成を行っています。

2025年3月1日（土）にインプレスグループ セミナールームで開催する「日本山岳遺産サミット」では、当基金の一年間の活動をご報告するとともに、2024年度の日本山岳遺産認定地および認定団体を発表します。各団体の代表者にご登壇いただき、活動内容や課題などについてもお話いただく予定です。また本年は、信州大学・梅干野成央先生をお招きし、特別講演を行います。参加希望の方は1月中旬以降に日本山岳遺産基金の公式ウェブサイトよりご応募ください。みなさまのご参加をお待ちしております。



2023年度日本山岳遺産サミットの様子

兵庫県 上山高原 認定団体 上山高原エコミュージアム

山の概要 兵庫県北部、鳥取県境の扇ノ山麓に広がる上山高原は標高約900mに位置し、見晴らしのよいススキ草原が広がる。周囲の森林には希少な植生が多く残されており、兵庫県レッドデータブックでは扇ノ山や霧ヶ滝周辺のトチノキ林、扇ノ山のブナ林の貴重性が高いとされる。1960年代以降はスギ植林によってブナ林が減少したほか、草原も人の手が入らなくなり樹林化が進行していたが、2001年度からスタートした自然保護活動によって復元が進められ、特にススキ草原の再生活動は地域の象徴となっている。

認定団体の概要 2004年7月設立。拠点となるビジターセンター（上山高原ふるさと館）は地域住民が主体となって運営しているが、地域外の都市部住民、団体、事業者、行政（兵庫県、新温泉町）などが参画する協働事業となっている。上山高原や麓の奥八

田の集落などをまるごと生きた博物館ととらえ、自然と共生してきた地域の暮らしに息づく知恵を学び活かし、次代に継承するとともに、地域の活性化に寄与することを目的としている。貴重で豊

かな自然を守り育むための環境保全、自然体験プログラムの企画、立案、運営をはじめとする各種活動や情報発信を行っている。

認定理由 上山高原周辺の自然再生活動は20年以上にわたり継続している。また、地域住民だけでなく地域外の都市住民、団体、事業者、行政の協働により運営している点を評価。



ススキ草原復元のためのシカ用電気柵を設置している様子

2023年度認定団体 活動報告

2023年度に日本山岳遺産地に認定された山域／団体から、今年度の活動報告をいただきました。

■ 福島県（安達太良山） 認定団体 あだたら山の会

助成金を活用して、整備に必要な備品などを購入して登山道整備を行っています。認定後は活動を知った方が入会したり、多方面の行政団体様とも情報共有をさせていただく機会が増え、整備方法についても新たな知見などをご紹介いただきました。また、一般の方にも登山教室を開催し、整備に参加して「登山道の今後について考えなくてはいけない」「楽しむだけでなく自分達登山者もなにか協力したい」など感想をいただきました。来年も各団体様と一緒に整備をする計画があり多くの方が安全に、安心して楽しめる安達太良山になるよう尽力いたします。



■ 富山県（朝日岳） 認定団体 朝日岳方面山岳遭難対策協議会 山岳救助隊

今年も無事に大きな事故もなく夏山シーズンを終わることができました。総距離50km超の夏山事前パトロールからはじまり、日々のパトロールや登山道整備に隊員は朝日岳方面へ来られる方に気持ちよく安全に歩いてもらいたいと情熱を持って山に向かっています。助成金で購入した整備道具は主に夏山の草刈りやパトロールによって発見された危険箇所の整備、倒木処理などで使用し登山者の安全に役立っています。北アルプスの最北端、朝日岳。どこから歩いていても遠い山だからこそ気持ちの良い山を目指して訓練や整備に力を入れています。



■ 富山県（道宗道） 認定団体 道宗道の会

2024年度の活動は、助成金を活用して草刈りや倒木処理などの登山道整備活動を計5回実施しました。猛暑が続く中でしたが、9月には全線（登山道約30km）の整備が終了しました。ほかに、登山道の案内標柱を計62本作成しました。今までは木製の標柱だったためクマによる被害に悩まされてきましたが、新しい標柱はグラスファイバー製で、今後のクマ被害はほとんどなくなることが期待されます。また、新しく設置した案内標柱にはQRコードが貼付されており、これを読み取ることで現在地などの案内を読むことができるようになりました。



■ 長野県・群馬県（浅間山）

認定団体 特定非営利活動法人 生物多様性研究所あーすわーむ

4月から11月まで計5回、のべ33名で、融雪後の防鹿柵のネットの再設置、センサーカメラやドローンによるシカのモニタリング、シカによる樹皮はぎ、蝶類調査を実施。また超音波レコーダーによるコウモリ類を初調査し、ヒナコウモリ（長野県絶滅危惧種）と思われる種を確認。防鹿柵内では植物の回復が進み、消失していたニッコウキスゲを初確認。しかし柵外では樹皮はぎは増加し、開花植物は減少の一途を辿っています。これまで以上に、防鹿柵の面積や樹皮はぎ防止ネットの数を増やすだけでなく、シカの個体数の削減を真剣に考える時がきています。



北アルプス安全登山アピール 2024年も実施

7月6日（土）に「北アルプス安全登山アピール2024」が開催されました。長野県、富山県、岐阜県の山岳遭難救助隊や自治体で構成する北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議の主催で、当基金が後援しています。本イベントでは本格的な夏山シーズンを前に山岳遭難救助の現場で活躍する各県警の担当者らが昨年の遭難救助事例を解説。さらに、安全に夏山を楽しむための登山計画の立て方やトレーニング方法を紹介しました。会場では約50人、オンラインでは約350名の参加がありました。



北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議の方々

「ヤマケイ涸沢フェスティバル2024」の横尾会場にて活動を実施

9月5日（木）から8日（日）にかけて、北アルプスの涸沢・横尾・徳沢の3会場で涸沢フェスティバル2024（主催：（株）山と溪谷社）が開催され、横尾会場の横尾山荘では代表の山田直さんと当基金によるトークセッション「中部山岳国立公園における山小屋の役割と現状について」を実施しました。宿泊や食事の提供などのほかに、登山道整備や遭難救助など山小屋の多岐にわたる活動や、登山道維持の取り組みである「北アルプストレイルプログラム」のことも、日本山岳遺産基金の活動にも繋がる内容を伺う機会となりました。



登山道整備について語る横尾山荘代表・山田直さん

2024年も「高尾山の市“野市”」に出展の「山と溪谷社 オリジナルストア」にて募金活動を実施

10月26日（土）と27日（日）に高尾山口駅前広場で「高尾山の市“野市”」が開催され、昨年に引き続き「山と溪谷社オリジナルストア」のブースで、日本山岳遺産基金の募金活動を実施しました。募金をしていただいた方々に、弊社で制作したオリジナル缶バッジをプレゼントする形で行ない、合計で18,023円のご支援をいただきました。また、駅から登山へ向かう方々へ「山岳遭難ピンチカード」や冊子、ステッカーなどを配布して、安全登山を呼びかけました。



2日間で数多くの方からご支援いただきました

組織（2024年12月20日現在）

■ 正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■ 会長

川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役会長）

■ 副会長

二宮宏文（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■ 監事

中村健一（株式会社インプレスホールディングス）

■ 事務局長

永田 恵（株式会社山と溪谷社）

■ 特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■ 法人賛助会員（50音順）

株式会社アライメント
株式会社コロナピンスポーツウェアジャパン
株式会社システム・クリエート
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社モンベル

■ 個人賛助会員

1名

■ アドバイザリーボード

下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学准教授）
田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会名誉会長）
西本武志（元日本勤労者山岳連盟会長）
野口 健（アルピニスト）
山川陽一（公益社団法人日本山岳会）

2023年度収支報告

前年度繰越金…………… 13,031,818円

収入

会員費…………… 600,000円
協力金等…………… 0円
寄付金等…………… 2,175,415円
その他…………… 43円
収入合計…………… 2,775,458円

支出

プロモーション費…………… 53,250円
イベント費用…………… 265,948円
基金運営費…………… 271,343円
助成金…………… 1,949,000円
支出合計…………… 2,539,541円

収支…………… 235,917円
次年度繰越金…………… 13,267,735円



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内
<https://sangakuisan.yamakei.co.jp/> e-mail : किन_info@yamakei.co.jp

発行＝2024年12月20日